

◆ 新予報技術講習会「予報技術コース」を開催しました

九州から東北地方まで全国各地から参加された 20 名ほどの方は、まずは降水短時間予報やナウキャスト情報の根拠となる技術的な背景について理解を深めました。休憩後の童券への気象解

析・予報・対応については、気象状況の変化に応じた情報提供、予報シナリオの変更など、予報のあり方について具体的な示唆に富む講義となり、局地的な激しい気象現象への防災対応あるいは解析・予測技術の改善について、熱心にメモをとるなど充実した午後のひと時を過ごしました。アンケートからも「実例がお腹いっぱいでした。家で復習します」、「実況監視の部分をもう少し細かく聞きたかった」などの声が届いています。特に気象事業に従事している方からは「実例に基づいた予報作業の例はとても参考になりました。他の事例も」と感謝の声がありました。

(気象業務支援センター 振興部)